

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年10月油糧・食用油市場観測情報については、中国農業部ホームページを通じ同年11月13日に発表されましたが、翌日になって同部ホームページ上から削除されたため、当機構としては、中国農業部によるその後の再発表に合わせるべく掲載のタイミングを図ってきたところです。しかし、当初の発表から1か月を経てなお再発表がないことや、発表内容が中国内外の関係機関の公表資料などにも掲載されていること等に鑑み、当機構としても「中国情報」の記事として掲載することとしました。

なお、この先、中国農業部から内容の変更等を伴う新たな発表があった場合には、事前の予告なしに本記事の内容について変更等を行うことがありますのでご留意願います。

2007年12月14日号

◎2007年10月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年10月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

### 1 油糧、食用植物油とも輸入増

長期にわたり、国産油糧・食用油生産が需要を満たさず、特に最近2年間は菜種、大豆の減産が連続した上、2007年は大豆、菜種生産量が引き続き下落する見込みであることから、国内供給量と需要量の差が拡大し、油糧・食用油の輸入を引き続き増加させている。2007年1～9月の油糧累計輸入量は、前年同期比2.5%増の2,257.2万トンとなった。うち輸入大豆及び菜種は、それぞれ2.1%増の2,169.4万トン及び42.5%増74.7万トンとなった。同じく食用植物油の累計輸入量は24.6%増の619.7万トンとなった。うち輸入大豆油及び菜種油は、それぞれ80.0%増の193.8万トン及び71.0倍増の29.0万トンとなった。気温の低下に従いパーム油の消費が閑期に転じたことから輸入が減少し、1～9月のパーム油累計輸入量は、0.03%減の387.3万トンとなった。

一方、食用油の輸出は大幅に減少した。2007年1～9月の食用植物油の累計輸出量は、前年同期比58.1%減の12.7万トンとなった。うち輸出大豆油及び菜種油は、それぞれ30.7%減の5.3万トン及び82.3%減の2.0万トンとなった。油糧の輸出は増加基調を保ち、同期の累計輸出量は15.9%増の95.9万トンとなった。輸出の主体は落花生で、11.7%増の47.6万トンとなった。

## 2 世界の油糧・食用植物油の供給はひっ迫、期末在庫量は大幅減

米国農務省（USDA）の10月の予測によると、2007/08市場年度（2007年10月～2008年9月）の世界の油糧生産量は、前年度比3.6%減の3.92億トンと見積もられている。うち大豆は6.3%減の2.21億トン、綿実油は0.3%減の4,586万トン、ヒマワリ種子は9.2%減の2,738万トン、落花生は0.7%減の3,214万トン、また菜種は5.5%増の4,931万トンとされている。世界の油糧輸入量は、8.8%増の8,687万トン、油糧圧搾量は2.9%増の3.303億トン、油糧期末在庫量は19.3%減の5,814万トンと見積もられている。

同じく、世界の植物油生産量は、前年度比3.7%増の1.261億トンと予測されている。うち大豆油は4.8%増の3,769万トン、菜種油は4.2%増の1,843万トン、パーム油は7.2%増の3,900万トン、ヒマワリ種子油は9.4%減の997万トン、綿実油は1.8%増の497万トン、落花生油は0.4%減の486万トンと見積もられている。世界の植物油輸入量は4.7%増の4,849万トン、消費量は4.4%増の1.265億トン、期末在庫量は9.7%減の777万トンとみられている。

## 3 国内油糧、植物油市場価格は高水準へ

需給バランスの関係から、国内の主要油糧買付価格は、上昇基調で推移している。これに加え、今年に入りエネルギーの国際価格高騰や船舶などの輸送手段の逼迫などから、国際海上輸送費が急騰し、10月の米国メキシコ湾から国内までの輸送費は1トン当たり110～120ドルの間で、年初に比べ2倍となり、大豆、菜種輸入コストを1トン当たり400元前後上昇させる直接的な要因となっていることから、国内油糧市場価格は上昇基調にある。この油糧価格の高騰はまた、食用油価格の持続的な上昇をもたらしており、10月の国内油糧・食用油価格は史上最高を更新し続けている。品目別の状況は以下のとおりである（10月25日の価格を基準とする）。

【菜種】青海地区の新収穫の菜種（含油率45～48%、水分・不純物1～12%）買付価格は、1斤（約500g）当たり2.20～2.25元となった。安徽、湖南及び湖北地区における菜種の工場買取価格は1トン当たり3,840～3,875円で、前年同月比37～39%高となった。

【菜種油】江蘇・浙江（江浙）、湖南及び湖北地区の4級菜種油の工場出荷ベースのオフター価格は1トン当たり9,250～9,350元の間で、前月比平均1.1～3.1%高、前年同月比

50%以上の高騰となった。

【落花生】山東省、河南省の中等搾油用落花生（殻なし）の工場買取価格は1トン当たり8,400～8,600元の間で、前月比30%前後高、前年同期比70%前後高となった。

【落花生油】山東省、河南省における落花生油の工場出荷価格は1トン当たり15,600元で、前月比10%前後高、前年同月比73%前後高となった。

【大豆油】山東省における4級大豆油の工場出荷ベースのオファー価格は1トン当たり9,000元前後で、前月比平均5.9%高、前年同月比平均54.4%高となった。

【パーム油】天津港、張家港（江蘇省沿岸）におけるパーム油（融点24℃）のオファー価格は1トン当たり8,260～8,270元で、前月比4～4.6%高、前年同月比70%以上の高騰となった。

#### 4 国際油糧・食用油価格は大幅に上昇

USDAの最新の予測によると、大豆が18%以上の減産となることに加え、前月に原油の国際価格が史上最高を更新したことから、大豆及び大豆油の国際先物価格は大幅に上昇して史上最高を更新し、これにより油糧及び食用油の国際価格も高水準へと押し上げられた。10月25日における、2月出航予定のカナダ発中国向け菜種のCNF（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB価格＋運賃）は1トン当たり510ドルで、前月比2.4%高、前年同月比41.7%高となった。これらの価格から推計すると、輸入菜種の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、江浙地区の新収穫の菜種工場買取価格に比べ1トン当たり1,060元前後高い。また、南米の未精製大豆油価格は1トン当たり968ドルで、前月比3.9%高、前年同月比54.5%となり、その通関渡し価格は、山東省の4級大豆油の平均工場出荷価格に比べ、同100元前後安かった。マレーシアのパーム油（融点24℃）価格は同900ドルで、前月比9.1%高、前年同月比94.4%高となった。